

カビ等の微生物の発生状況について

1. 経緯

平成17年

- 9月 5日 カビを発見。サンプリングを行う。
- 6日 東京文化財研究所に対し分析を依頼。
無水アルコール（エタノール）をカビ該当部分に集中して噴霧。
- 7日 石室全体をパラホルムアルデヒドで燻蒸し、石室を閉鎖。
- 8日 報道発表（カビの発生状況）
- 12日 燻蒸効果の確認（点検日）し、「ゲル状物質」を発見。
- 16日 カビの専門家による調査。
 - ・カビ及び「ゲル状物質」を調査し、サンプリングを行う。
- ～10月 4日 石室内の「ゲル状物質」の分布調査（点検時）。
(9月16日、21～22日、27日、10月3～4日)

2. 発生状況

(1) カビ（9月5日点検時）

①白虎の前肢部分、臀部部分（写真1）

- ・緑色、黒色のカビ（直径5cm～7cm）の範囲。
- ・絵そのものにカビがかかっている部分あり。
- ・カビは筆で触れる程度では動かない。

②青龍の右上方部の中心部分（写真2）

- ・右上方部を中心に黒色（一部緑色）のシミ（最大直径15cm）。
- ・昨年度中からごく薄く確認されていたものが濃くなり、さらに拡大した様子である。
- ・当該箇所は、局所的に濡れており、ダニが多い。

(2) ゲル状物質（9月12日点検時）

東西壁女子群像、男子群像を含む、壁面各所にゲル状物質が見られる（写真3～5）。



白虎周辺の黒いカビ発生状況（写真1）



青龍周辺の黒いカビ発生状況（写真2）



西壁女子群像周辺ゲル状物質集中部（写真3）



西壁黄衣女子像胸部（透明なゲル状物質が付着）（写真4）



西壁黄衣女子像裾部（褐色のゲル状物質が付着）（写真5）

いずれも文化庁撮影（平成17年9月）



西壁女子群像（全景）



西壁女子群像（拡大）

赤衣女子像の右肩部、右目脇に暗色の染みが認められる。

平成 18 年 2 月 2 日 文化庁撮影